

JASEB(ジャセブ)を御存知ですか？

日本視覚障害理科教育研究会事務局(筑波大学附属視覚特別支援学校)

柴田 直人

JASEB(ジャセブ)は、日本視覚障害理科教育研究会の英語名称の略称です。本会は、「視覚に障害のある児童生徒の理科教育の理論と実践について研究し、我が国の視覚障害理科教育の向上をはかる」ことを目的とした研究会です。

昨年度の普通教育連絡協議会(普連協)総会や、ここ数年のいくつかの研究会の場において、視覚障害教科教育の全国的な研究会の有無についての質問があり、これまで以上に積極的に本会の存在について全国の先生方へ発信しなければならぬと感じましたので、ここで本会の歴史について簡単に御紹介したいと思います。

(なお、全国的な視覚障害教科教育の研究会としては、本会の他に、「日本視覚障害社会科教育研究会」と「視覚障害算数・数学教育研究会」があります。)

本会の設立に携わり、現在も科学へジャンプ事業などで視覚障害理科教育の継承・発展に御活躍中の本会会長 鳥山 由子 先生に会の発足についてお聞きしました。

お話によると、研究会設立の発議は 1980 年 8 月の全日盲研理科部会でした。当時は理科の実験が十分に行われていない盲学校も多く、全日盲研理科部会だけでは実践の共有が困難であり、情報交換と実践・研究の継続のため、研究会の必要性が痛感されていたためです。この発議を受けて同年 11 月 21 日に有志による会を開き、本会の目的、名称、役員を決め、この日を研究会発足の日として全国への呼びかけを行いました。翌 1981 年第 1 回研究大会が開催され、規約が成文化されました。

発足以来、37 年が経過し、この夏には、第 37 回研究大会が筑波大学附属視覚特別支援学校で 2 日間の日程で開催されます。例年、全国の先生方からたくさんの実践報告の発表があります。本会では、研究大会に合わせて毎年、全国の盲学校の先生方の授業実践報告等を中心とした、視覚障害理科教育の研究論文を掲載した会報『JASEB NEWS LETTER』を発行しています。

研究大会については、例年、第 1 学期中に第 1 報、第 2 報を発行し、全国の盲学校宛に御案内差し上げています。(宛先は各盲学校長宛です。)また、会報『JASEB NEWS LETTER』は、第 2 報とともに、同じく全国の盲学校宛に送付しています。

第 1 報、第 2 報が届きましたら、校内で理科担当教員や管理職止まりにせず、是非、校内の多くの先生方に回覧していただき、本会の存在を御周知いただくと共に、異動により思いがけず視覚障害理科教育に携わることになり、授業の進め方などで困っていらっしゃる先生方の助けになれば幸いに思います。理科担当教員だけでなく、幼稚部から専攻科まで、教科・領域・学部に関わらず、御興味のある先生方は、是非、研究大会にお気軽に足をお運びいただければと思います。(盲学校から他校種へ異動された先生方の中には、引き続き会員として登録されている方が大勢いらっしゃいます！研究大会には、理療科の先生方も参加して下さったこともありました！)本会には、web ページ (<http://www.jaseb.net/>) もありますので、是非一度、御覧ください。

盲学校理科実験・観察の工夫の再確認(1)

—マッチに火を点ける—(その①)

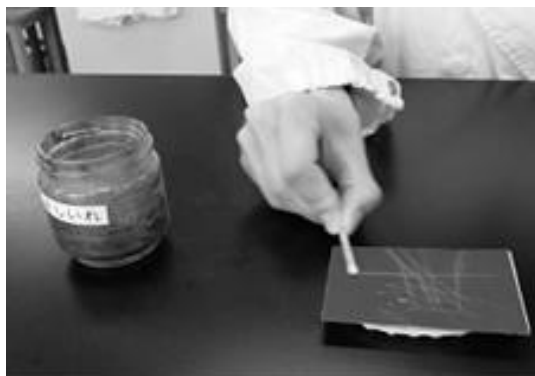
筑波大学附属視覚特別支援学校

柴田 直人

本校中学部・高等部で化学分野を担当している濱田志津子教諭の授業の一コマから御紹介です。

この授業で使用する道具は、マッチ、燃え差し入れ、マッチストライカーです。マッチストライカーとは、マッチの側薬の部分を手のひら大の大きさにカットしてプラスチックの板に貼り付けた物で、石鹼ホルダー（吸盤）を用いて、机上に固定して使います。（右の写真）

濱田教諭がマッチ会社から、大きなシート状になった側薬を購入し、自作教材として活用しています。



マッチストライカーがあることで、視覚障害児童・生徒はマッチ箱を持たずに、片手でマッチを擦ることができます。どうして片手でマッチを擦る必要があるかといえば、マッチを擦らない方の手で、点火したい道具（ガスバーナーなど）を予め支えておき、マッチを擦った手を近付け、点火する必要があるからです。

授業では、まず、マッチの持ち方や捨て方から練習します。マッチ 1 本を用意し、マッチの軸木を横向きにして持ちます。これを、もう片方の手で押さえた空の燃え差し入れの上に持っていきます。軸木を燃え差し入れの直径に合わせるようにして燃え差し入れの上に持っていったら、軸木の端を摘んでいる親指と人差し指の二つの指を離します。すると、マッチ棒が燃え差し入れの中に落ちて、火が消えることを伝えます。火を点ける前に、まず、マッチを捨てるところまでの手順を練習しておくことで全体像を見通せて、安心して操作することができます。



次に、いよいよマッチに点火します。マッチを 60 度くらいに傾けて状態で、マッチストライカーに強く押し当てたまま、1、2cm 手前に引くと簡単に火が点きます。火を点けることに不安の大きな児童・生徒とは、一緒に手を取って、安心して火を付けられるようになるまで練習を繰り返します。

火が点いた後のマッチは、横向きに持ち、先ほどの手順で燃え差し入れに捨てる練習を行います。

（ミニレター2 報に続く）

